



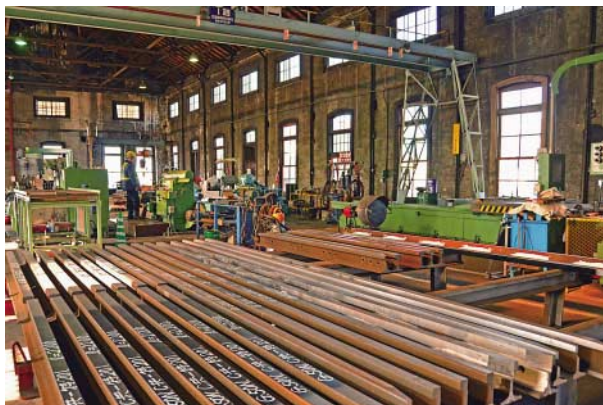
# 線路が紡ぐ物語

鉄道記念物・準鉄道記念物の18史

写真・文＝原田伸一

鉄道記念物は、歴史ある鉄道財産を後世に残すために日本国有鉄道が1958年に設けた制度である。JR北海道ではこれを引き継ぎ、2010年北海道鉄道130周年を機に新たな指定を加え、記念物は4点に準記念物は14点となった。いずれも北海道の鉄道発展に功績があった動力車や施設ばかり。それらが登場した時代背景をたどりながら、果たした役割などを紹介する。

## 第10回 【岩見沢レールセンター（準鉄道記念物第14号）他】



作業場には補修や加工を待つレールがびっしり並ぶ。寸分の狂いも許されない仕事だ

岩見沢駅ホームに立つと、駅舎の反対側にレンガ造りの大きな建物が見える。これがJR北海道岩見沢レールセンターだ。一八九九年（明治三十二）建設とされ、産業史的にも貴重な存在。元は車両製造や修理の工場だったが、今は道内のJR路線三六〇〇キロメートルに及ぶレールの検査補修、加工などを一手に引き受けている。「私たちの仕事は安全の土台を守るレールドクター」（三上史郎所長）との誇りを胸に二十六人のスタッフが業務に当たっている。



国道273号から見える第三音更川橋梁。往時の優美さを伝えている

●旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群／国道273号線糠平温泉―十勝三股間の随所 ☎01564・2・3385（NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会）。見学は国道や自然歩道を利用。車両通行止めのある場所もある。旧糠平駅には上士幌町鉄道資料館がある。

東大雪のふもと、糠平温泉郷付近に旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群（準鉄道記念物第9号）が点在している。同線は一九三九年（昭和十四）、帯広―十勝三股間が全通。急勾配の山岳路線で、十五ほどのコンクリートアーチ橋が作られた。地元産の木材、砂利を使い、かつ雄大な景観にマッチするようアーチ型で設計された。北海道初のタイプで「ローマ時代の水道橋に似ている」と人気だ。地元で保存活動をしているNPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会の角田久和事務局長は「当時の設計図を見ると、実に良く練り上げられている。この地の文化財として長く伝えて行きたい」と意気込みを語っている。



札幌駅周辺の賑やかさを演出したジオラマ。本物そっくりの模型の列車がホームを行き交う

●北海道鉄道技術館／札幌市東区北5条東13丁目 ☎011・721・6624。毎月第2、第4土曜日開館。13:30～16:00。都合により休館する場合あり。入館料無料。

駅周辺を縮小して再現したジオラマやSLの実物大車輪などが人気。また、「SL冬の湿原号」などを牽引するC11形の復元記録も見逃せない。一九一〇年（明治四十三）に建築された苗穂工場の用品庫で、工場最古のレンガ造り。鉄道の歴史を伝えるには取って置きの雰囲気だ。

苗穂駅近くにある北海道鉄道技術館（準鉄道記念物第12号）の開館日は大勢の家族連れやファンで賑わう。特急「おぞら」の初代先頭車キハ82形やリゾット特急の運転席に座り、運転士気分を味わえるほか、札幌